

人口問題と私たちが直面する課題 2

人口問題って人口増加?人口減少?



今号から、矛盾した課題としてとらえられることの多い人口問題を、それぞれのテーマにしたがって概観していきたいと思います。本号のテーマは、人口問題って人口増加を抑制することなの？それとも少子化を防ぐ＝人口を増加させることなの？という疑問について考えていきたいと思います。この一見全く反対の人口問題は同じ対処法で対処すべき問題であると同時に、同じ現象の2つの側面といえるものです。この問題について詳細に考えていく前に、ちょっとだけ寄り道します。

1. 人口と数字

人口問題を扱うとき、数字が出てきます。これだけでジンマシンが出るという人もいるかもしれませんが、人を数で表すことは人口問題を取り扱う場合の基本的な方法といって良いでしょう。よく、世界人口が70億人を超えたとか、日本人口は2100年には5000万人を切るというニュースを耳にするとおもいます。

今年6月13日の国連人口部の最新の世界人口予測によれば、7月1日の世界人口は約72億人、2025年に約81億人、2050年に約96億人、2100年には約109億人に達する見通しだといえます。平均寿命は各国・地域で延び、2095～2100年は韓国が95.5歳でトップ、日本は94.2歳で香港に次いで3位になると予測されています。80歳以上の人口は、2013年の約1億2000万人

から、2100年は約7倍の約8億3000万人に増えると考えられます。また2100年には11か国で人口が2億人を超え、うち6か国をニジェールやウガンダ、エチオピアなどアフリカ諸国が占め、ナイジェリアは約9億人で、インド、中国に次ぐ人口大国になるといいます。

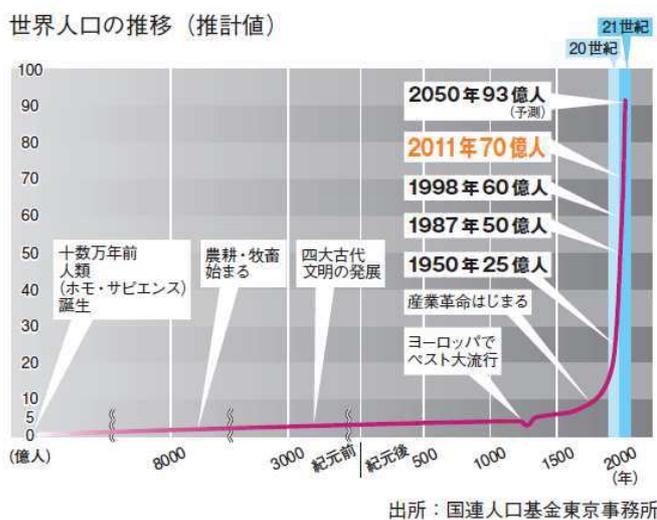
日本に関して言えば、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」によれば、2010年の国勢調査による日本の総人口は1億2806万人です。出生中位推計の結果に基づけば、この総人口は、2030年の1億1662万人を経て、2048年には1億人を割って9913万人となり、2060年には8674万人、2100年には4959万人になるということになります。

あらたいへん。

日本が高度成長を達成し、1970年の大阪の万国博覧会で盛り上がっていた頃、日本の人口は1億人を超えました（1億371万人）。その頃の世界人口は36億9117万人で、日本の人口が世界人口に占める割合は2.8%でした。それが2100年には0.45%しか占めなくなりそうです。

ほら見たことか、人口減少が国家を衰退させるのだという声が聞こえてきそうですね。しかし、もし100億の世界で日本の人口が1970年と同じ人口比率を持つとすれば、日本は2億8000万人以上の人口が必要になります。そんなことが可能でしょうか。これらについての議論は、あとで少し詳細に行っていきたいと思います。

ここでは人口が数字で表されるということを改めて確認しましょう。この数字とは一体何でしょうか？なんと漠然とした質問ですが改めて考えみましょう。



よく戦争でxx万人死亡したなどという記事が新聞に載ります。そのとき私たちは「フーンxx万人か、大変だな」という感想で終わってしまう場合が多くあります。数字は冷静に事実を伝えますが、数字に還元されてしまい、なぜその数字が出てきたのかについての想像力を奪ってしまうことがあります。

人口は基本的に出生と死亡で成り立っています。特に増加とか減少とかいう場合、地球規模で考えれば出生と死亡しかありません。おふざけが過ぎるか

もしれませんが、そうでない場合というのは、「宇宙人が拉致した」などしかありえないのです。つまり普通に考えれば、地球の人口規模（大きさ）を考える場合には「出生」と「死亡」だけを考えればよいということになります。

今の私たちの世界を考えてみましょう。これからの議論は、国連が行った2010年から2015年の予測の平均値に基づいて行います。国連の推計によれば、この期間に世界では毎年1億3912万人が生まれ、そして、5740万人が亡くなっています。その差である8172万人が現在の世界人口の増加となります。

フーン、8172万人の増加か、大変な数だな、と置いていただければまだ数字にリアリティがある方だと思います。この人口はロシアを除くヨーロッパで最も人口の多いドイツの人口8302万人（2010年）にほぼ匹敵し、フランスの人口6323万人（2010年）よりもずっと大きな数です。つまり毎年世界にドイツ規模の一国に相当する人口が増えているのです。少しは数にリアリティが出てきたでしょうか。

さらに想像力を膨らませてみましょう。世界で毎年1億3912万人が生まれているということは、毎日世界のどこかで38万1150人が生まれているということであり、一時間毎に1万5881人、一分ごとに265人が生まれているのです。オンギャーという赤ん坊の泣き声が聞こえてきませんか？これは毎年世界で約2億8000万の人が新たに親になったか、2番目、3番目かはわかりませんが、その子の親となっていることを意味します。そしてその数倍の親戚や親兄弟がミルクだ、オムツだと大騒ぎしているのです。もちろん新しい命を授かって喜んでいる人がほとんどだとは思いますが、中には現実を受け入れられない人や、悲嘆にくれている人、中には呆然としている人もいるかもしれません。

いずれにしても世界中で10数億人の人々が毎年大騒ぎしているわけです。これは相当に大きな数ではないでしょうか。そして死亡も同じです。計算はしませんが、その数倍の人が身近な人の死により悲嘆にくれています。まさしく出生と死亡をめぐって悲喜こもごものドラマが世界中で繰り広げられているのです。

このように人口問題が表す数字は非常に重大な意味を持つものです。出生は新たな命が生まれたこと意味し、死亡は一つの命がなくなったことを意味します。人口統計の中で一つの数字の変化は、一人の人生そのものを示しています。

また平均余命が伸びたということであれば、これは乳幼児の死亡率が低下したこと、全体的な健康状態が改善されたことなど、一人ひとりを取り巻く衛生や栄養の状態が改善したことを意味します。

私自身の個人的な経験ですが、数字の意味がわかったとき、その数字の背景にある人々の生活がリアリティをもって迫ってきました。そして数字が単なる数字ではなくなりました。

2. 人口の増加と減少

これから本題です。現在私たちが直面している人口増加と減少は、いずれも人口転換に伴って起こったものといえます。もちろん現生人類がアフリカから出てわずかな時間に世界中に広がったことを考えれば、人口は基本的に増加してきたといえるかもしれません。ホモサピエンスとしての現生人類だけでも何度かアフリカから出てきたようですが、現在の世界に住む私たちの直接の祖先となる人々は2回に分かれて出てきたようです。

かつてはナイル川を北上し、イスラエルのあたりを通過して拡散していったと考えられてきましたが、現在ではそのルートは否定されているようです。彼らにはエチオピアからジブチのあたりを経由して紅海を横断し、アラビア半島に渡り、そしてペルシャ湾、インドと沿岸に沿って広がり、その後東南アジア経由でオーストラリアまで渡ったグループと、同じように紅海に出てアラビア半島を海岸沿いに北上し、ユーラシアに広がり、さらにヨーロッパと北東アジアに広がったグループがあったようです。このルートは、今では現実味が無いように感じますが、氷河期において海水準が低か

った当時、海沿いには豊富な食料があり、さらに砂漠のアラビア半島にあって豊富な自然湧水に恵まれていたようです。

10 万年前の出アフリカに始まるホモサピエンスの分布拡大



国立科学博物館

いずれにしても、このアフリカからユーラシアに出て行き、現在 72 億人の人口の祖先となった人たちは 150 名程度ではなかったかと考えられています。大変な人口増加ですが、実はこれほどの人口増加であっても、この期間における人口増加率はたいしたものではありませんでした。

西暦元年頃の世界人口が 2 億人ぐらいと想定されていますが、出アフリカは 10 万年前から 6 万年前に起こったものであり、その間の人口増加率は限りなくゼロに近いものです。仮に 7 万年で約 1 億 5000 万人にまで増加したと考えた場合の年平均増加率は、わずかに 0.02% でしかありません。

それでも人類の拡大で、多くの生物がその食料となって絶滅していることがわかっています。天敵がいなくて飛ぶことを放棄した鳥類などは、その餌食となったようです。有史に入ってからでも、モーリシャス諸島に生息していたハトの仲間のドードー鳥が船員の食料となってあっという間に絶滅しました。この鳥は、『不思議の国のアリス』に登場することで有名ですね。

もちろんこの期間、平均してこの増加率であったというよりは、それぞれの時代の生産手段で確保可能な地域の生態系の扶養力を、増加した人口が超えたとき、その人口圧力に対処するために人口移動が起こったのででしょうし、また天災や自然環境の変化などで何度も絶滅の危機に瀕したのではないのでしょうか。

人類の歴史は、自然史的に考えると人口増加の潜在的な圧力に突き動かされてきた歴史であるといえますが、それでもその人口増加のほとんどは高い死亡率で相殺されてきたといえます。いずれにしても、現在の人口問題が扱う数%という大きな変化ではなかったのです。言葉をかえれば、人類がこの世界に広がっていったという猛烈な変化の数十倍から数百倍の変化を、私たちは経験していることとなります。

現在、私たちが取り組んでいる人口問題は、近代になって生産力が増したことで、環境を変える術を学んだこと、そして科学技術の進歩が公衆衛生をはじめとする医学を進歩させたことで生じた課題だといえます。非常に大まかに言えば、死亡率の低下がそれまで相殺されてきた人口の生き残りを可能にし、急速な人口増加を作り出したのです。そして現在の人口問題は、近代化によって発生し

たこの多産多死から少産少死への移行の過程、つまり人口転換の結果として起こっていると考え
ことができます。

人口問題をどうとらえるかを考えるためには、人口転換を把握する必要があります。次号では人口
転換についてできるだけ簡単に解説します。

(楠本 修)